

| | | |
|---------|--|---|
| 学校教育目標 | 一生懸命がすばらしい ～夢と志を抱き、仲間とともに、主体的に生きる子どもの育成～ | |
| a ミッション | ●主体性と規範意識を身に付け、心を育てる小中連携教育の推進 | a ビジョン ●周りから応援される生徒、他校から目標とされる学校 ●夢や志を抱き、自己肯定感を持って仲間と力を合わせて主体的に学ぶ生徒 ●生徒の夢の実現を後押しできる専門性と人間性を兼ね備えた教職員 ●挨拶・歓声・歌声が響き渡り、生徒・保護者・地域が自慢でき誇りたくなる学校 |

尾道市立栗原中学校

| 評価計画 | | | | 自己評価 | | | | | 学校関係者評価 | | | 改善計画 | | | | | | | |
|--------------|---|---|---|--|------------------|---------|---|---|---|--------------|--|--|---|---|-------|---|--|--|--|
| b 中期経営目標 | c 短期経営目標 | d 目標達成のための方策 | e 評価指標 | f 目標値 | 7月 | 1月 | h 達成度 | i 評価 | j 結果と課題の説明 | k 二次評価 | | | l コメント | m 改善案 | | | | | |
| | | | | | g 達成値 | g 達成値 | | | | イ | ロ | ハ | | | | | | | |
| 学力の向上 | 意欲を持ち、学習に主体的に取り組む生徒を育てる。 | <p>(1) 道徳科を中心とした授業改善を図ることを通して、主体的に学習に取り組む態度を涵養する。</p> <p>(2) ICTを効果的に活用することを通して、思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) 授業での振り返りの積み重ねを通して、学習内容の定着を図る。</p> | <p>(1) ①生徒アンケート〔1～3〕の肯定的回答 (1) ②保護者アンケート〔1・2〕の肯定的回答</p> <p>(2) ①生徒アンケート〔4〕の肯定的回答 (2) ②AiGROWIによる「表現力」の数値</p> <p>(3) ①教職員アンケート〔4・5〕の肯定的回答 (3) ②生徒アンケート〔5・6〕の肯定的回答 (3) ③保護者アンケート〔3・4〕の肯定的回答</p> | <p>(1) ① 85%以上 (2) ② 85%以上</p> <p>(2) ① 85%以上 (2) ② 0.57以上</p> <p>(3) ① 100% (3) ② 85%以上 (3) ③ 80%以上</p> | 84.8% | 88.2% | 103.8% | (1) ① A (2) ② C | <p>(1) 生徒アンケートでは肯定的回答が88.2%と目標値を超え、どの学年も主体的に学習に取り組んでいることがうかがえる。「難しい問題や課題に対して、あきらめずに取り組んでいる」の項目も85.2%と7月よりも5ポイント以上向上した。しかし、保護者の肯定的回答が66.5%と低く、生徒の回答との差が大きい。</p> <p>(2) 教職員の「ICTを活用している」の肯定的回答が95.7%であるのに対して生徒の「ICTを効果的に活用している」の肯定的回答は83.4%であった。「思考力・判断力・表現力等を育成する」のために、どうCTを活用するのかを改めて全体共有する必要がある。また、AiGROWIによる調査の結果は0.56であった。学年別では1年0.58、2年0.51、3年0.58で、特に2年生が低いことが課題である。ICTの活用と表現力の育成の視点を明確にして取り組む必要がある。</p> <p>(3) 「振り返り」について、教職員アンケートでは91.3%と意識して取り組まできているが、振り返りが学力の定着につながっている実感できている生徒は84.6%、保護者は55.1%と差があり、取組を成果に結びつけていく必要がある。また、「自己表現力」に係る項目において、教職員は87.0%の割合で取り組んでいるが、生徒の肯定的回答は80.1%、さらに保護者の肯定的回答は55.5%にとどまっている。</p> | ○ | | | <p>学習活動の振り返りで、学習して身に付けたスキルやその意義をメタ認知させる局面が必要である。振り返りシートの共有の次の段階として、学力向上に繋がる振り返りの内実を充実させるため、研修や情報共有にも目を配りたい。</p> <p>学力向上に係る項目の数値が軒並み向上している。学習意欲が高まっている今が学力向上のチャンスと捉え、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。</p> <p>AiGROWIで表現力は評価しているが、思考力・判断力を評価することも可能なか、検討が必要である。</p> <p>依然として生徒と保護者のアンケート結果の乖離はある。生徒の頑張りを保護者が意識するように学校だよりで周知しているが、それがどれ程の保護者に届いたかわからない。我が子に厳しめに回答をする保護者も一定数はいらぬと思うので、乖離をさほど問題視しなくてもいいのかもしれない。</p> | <p>①道徳科を中心に研修を進めている「めあての明確化・対話の充実・振り返りの充実」を各教科での実践につなげ、学力向上に向けた授業改善を図る。特に、対話を重視し、どの教科においても小集団での活動場面を意図的に増やす。</p> <p>②授業における「対話」の場面で、いかにICTを活用できるのかについて校内研修を年度当初に実施し、共通認識を持つ。AiGROWIによる調査結果分析を生徒及び保護者に還元し、日頃の自己表現活動につなげていく。</p> <p>③本校における「めあて・まとめ・振り返り」の定義を改めて確認し実践の徹底を図る。また、一人1授業を継続し、教科の枠を超えた実践交流を図る。さらに、授業での「振り返り」を学級活動や総合的な学習の時間、学校行事の振り返りにも発展させ、学力の定着につなげていく。</p> <p>学力に向けた取組を丁寧に保護者に説明し、理解を促す。</p> | | | | | |
| | | | | | グローバル社会を生き抜く力の育成 | 豊かな心の育成 | <p>(1) 組織的な生徒指導の推進により、自己指導能力の育成を図る。</p> <p>(2) 自己肯定感を育み、いじめを生まない望ましい学級・学年集団づくりを進める。</p> <p>(3) キャリア教育を充実させ、夢や志を明確にもたせる。</p> | <p>(1) ①生徒アンケート〔9～11〕の肯定的回答 (1) ②保護者アンケート〔8～10〕の肯定的回答 (1) ③教職員アンケート〔7～10〕の肯定的回答</p> <p>(2) ①生徒アンケート〔12～16・19〕の肯定的回答 (2) ②保護者アンケート〔11～14〕の肯定的回答 (2) ③教職員アンケート〔11・13〕の肯定的回答</p> <p>(3) ①生徒アンケート〔7・8〕の肯定的回答 (3) ②保護者アンケート〔5～7〕の肯定的回答 (3) ③教職員アンケート〔6〕の肯定的回答</p> | | 83.4% | 83.9% | 98.7% | (1) ① B (1) ② C (1) ③ A | <p>(1) 数値的には7月よりも向上しているが、生徒アンケート「部活動に積極的に参加している」が5p以上下がっている。また、「学校や社会のルールを守っている」の項目において、生徒の肯定的回答は95.8%と高いが、保護者の肯定的回答は58.9%と低く、意識の差が大きい。校外でも信頼されるよう、改めて規範意識の育成に努めていく必要がある。</p> <p>(2) 「いじめ」について、生徒の「いじめはいけなく思う」の肯定的回答が96.1%と数値的には高いが100%ではないこと、そして保護者の「栗原中学校にはいじめを許さない風土がある(取組が充実している)」の肯定的回答が54.1%と低いことが課題である。また、生徒の「自分にはいいところがある」、「学級や部活動で役に立っていると感じる」の割合が高くない。自己肯定感を育むための意図的な集団づくりが急務である。</p> <p>(3) 生徒の「将来の夢や目標、志をもっている」の肯定的回答が76.5%であり、目標値を下回っている。保護者の「お子さまと将来(夢・進路)のことについてよく話している」の肯定的回答も71.2%である。上級学校調べや職場体験学習を充実させながら、家庭を巻き込んだキャリア教育の充実を図り、生徒に早い段階から夢や志をもたせる必要がある。</p> | ○ | | | <p>生徒と教職員との人間関係が質的に向上していることが大切である。</p> <p>保護者アンケートをとる前に「キャリア教育」の取組例を紹介する等、学校の経営方針や取組内容を周知する場(PTA総会など)があればよいと思う。</p> <p>栗原中学校の良さとして、部活動をがんばる生徒が多いイメージがある。チームワークや一歩ずつ人間関係を築く大切な時期なので、積極的に部活動で大切な時期なので、積極的に部活動で大切にしていきたい。学業だけでは得られない経験も意欲的に積んでほしいものである。</p> <p>生徒アンケートにおいて7月と比較すると下がっている項目がある。心に残り着きを持っていない生徒がいるサインとして気を付けて指導してほしい。</p> | <p>①継続して「未然防止の取組」を積極的に、学校全体で共感的な人間関係の構築を図る。また、生徒会執行部にも、学校教育目標等を意識させ、生徒による自治的風土の醸成に努める。</p> <p>②改めて「いじめはいけなく思う。」生徒100%を目指すとともに、学校の取組が保護者に伝わるよう取組の見える化を図る。生徒アンケートについては、随時保護者に公開する。また、生徒アンケートと保護者アンケートの関連項目については、特に乖離している項目については、その要因の把握に努める。</p> <p>③まずは、本校のキャリア教育の意義・柱を教職員で確立させ、共有化し、系統性ある取組を行う。さらに、随時保護者に情報発信し、家庭や地域を巻き込んだキャリア教育を実践していく。</p> |
| | | | | | | | | | | 魅力的な学校づくりの推進 | 生徒が栗原中学校に愛着と誇りを持ち、地域や保護者から信頼される学校づくりを行う。 | <p>(1) 生徒の学力の向上に向けて、教員の授業力向上を図り、授業改善を行う。</p> <p>(2) 系統性ある取組を行うために、小中連携教育の充実を図る。</p> <p>(3) 魅力的な行事等を創造するとともに、学校だよりやHPを通して、学校の情報を積極的に発信していく。</p> | <p>(1) 教職員アンケート〔1～3〕の肯定的回答</p> <p>(2) ①毎月1回以上の小中連携会の実施 (2) ②教職員アンケート〔12〕の肯定的評価</p> <p>(3) ①生徒アンケート〔17・18・20〕の肯定的回答 (3) ②保護者アンケート〔15・16・18・19〕の肯定的回答</p> | | 88.9% | 97.1% | 97.1% | (1) B (2) ① A (2) ② B (3) ① A (3) ② B | <p>(1) 「授業改善は進んでいると捉えている」割合は95.7%、「研究主題を意識して授業づくりに取り組んでいる」割合は100%と大幅に向上している。今後も継続し、生徒の学力向上につなげていきたい。</p> <p>(2) 毎月1回の生徒指導主事間の連携、学期に1回の教頭間連携は計画的に実施できている。夏季休業中には、校区内の小中学校合同で生徒指導に係る研修会を実施した。継続して取り組み、系統性ある指導体制を構築していく。課題としては、教職員アンケートにおいて「小中連携教育は充実している」と捉えている割合が80%を超えたが、まだ一部の教職員の連携にとどまっていることが挙げられる。学力向上に向けた研究部を巻き込んだ取組を推進する必要がある。</p> <p>(3) 学校行事の見直しに軽重を付け、行事の充実を図ることができた。生徒アンケートの肯定的回答80.1%、保護者アンケートの肯定的回答79.7%と、ほぼ目標値に達している。課題としては、学校だよりや定期的なHPの更新により情報発信しているものの、「栗原中学校は信頼できる」76.0%「栗原中学校に通ってよかった」76.7%とあまり高くない。学校の取組や生徒の頑張りを積極的に発信しながら、保護者と一体になった取組を推進していく必要がある。</p> |
| 教職員の働き方改革の推進 | 業務改善の意義を職員全体が共通認識し、積極的に取り組むことで、「本校で働いてよかった」と思える職員集団とする。 | <p>(1) 働き方改革の意識向上</p> <p>(2) 超過勤務時間の削減</p> | <p>(1) ①職員の働き方改革アンケートの肯定的回答 (1) ②教職員アンケート〔14～17〕の肯定的回答</p> <p>(2) 超過勤務45時間未満の完全実施</p> | 87.3% | 93.5% | 116.9% | (1) ① A (1) ② A (2) D | <p>(1) 尾道市教育委員会が実施した「働き方改革アンケート」10項目の平均は93.5%で、昨年度の78.2%よりも大幅に改善され、意識が向上していることがうかがえる。課題としては、「学校教育目標の達成に向けた取組に全ての教職員が参画している。」の肯定的回答が85.0%と高い数値であるが、唯一市の平均値を下回っている。</p> <p>(2) 超過勤務45時間未満の割合は、55.8% (4～7月:41.7%、8～1月:65.3%)で、昨年度の40.0%を上回っているものの、目標は達成できていない。改めて業務改善の意義を全体で共有し、行事の精選と早期退校の取組を継続して推進していく必要がある。</p> | ○ | | | | | | | <p>明確に成果が見られ、高く評価できる。</p> <p>アンケート結果からも、先生方の勤務状況や、働き甲斐などは向上していると感じる。</p> <p>大幅な意識の向上が見受けられる。コロナ禍が明け、日常を取り戻すことで、少しでも先生方の負担が減っていくことを祈る。</p> | <p>①働き方改革の意識向上に向けて、継続して働き方改革の意義の共有化を図るとともに、全員が参画意識を持ってよう、主任・主事を定例化し、学校教育目標を意識した取組を実践する。</p> <p>②年度末に、今年度の行事の見直しと役割分担の明確化を行う。年間スケジュールの見える化を図り、見直しを持って職務に当たる。また、早期退校に向けた取組を改めて協議し、教職員一人一人が主体的に取り</p> | | |

【自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成)
B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80
D: (できていない)<60

【外部評価】 イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:わからない。